



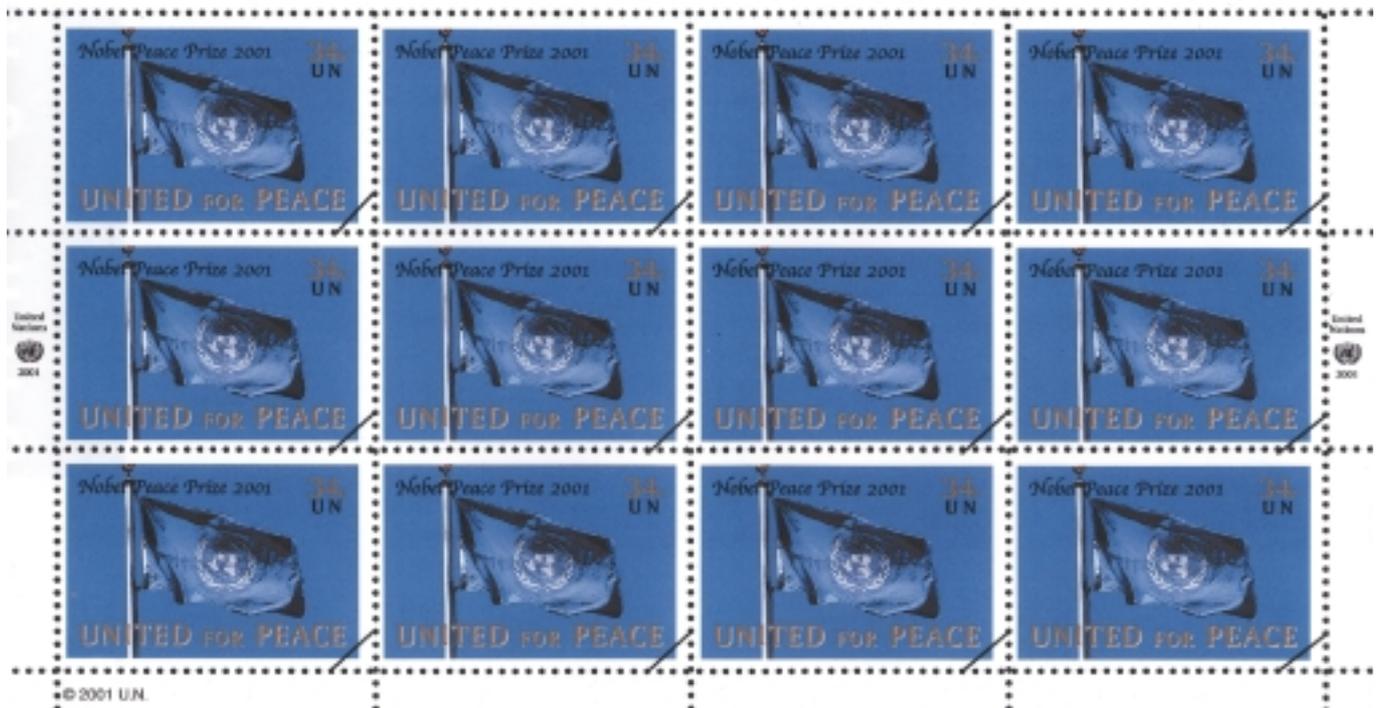
UNIC Tokyo Dateline UN

December 2001 Vol.27

国際連合広報センター



United Nations
and
Secretary-General Kofi A. Annan
Recipients of
The Nobel Peace Prize - 2001



ノーベル平和賞受賞記念切手できる

国連郵政部は12月10日、“UNITED FOR PEACE”と題した切手を発行しました。この切手は、国連とコフィー・アナン事務総長2001年ノーベル平和賞受賞を記念して作られたもので、同時に特製ホルダーも発表されました。

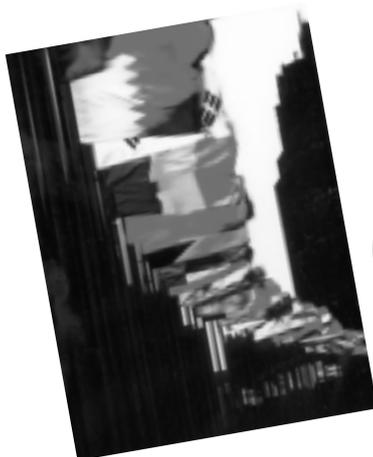
国連は、国あるいは政府以外で郵便切手の発行を許可されている世界で唯一の機関です。米国、スイスおよびオーストリアの郵政当局との取り決めにより、国連郵政部は米ドル、スイス・フランおよびオーストリア・シリングの3つの通貨建てで切手を発行しています。コレクターズ・アイテムとして人気の高い国連切手ですが、郵便目的ではニューヨーク、ジュネーブおよびウィーンの国連事務局にある国連郵便局からの投函にのみ使用が可能です。

国連切手に関する情報は <http://www.un.org/Depts/UNPA> で見ることができ、財団法人郵便文化振興協会 (Tel: 03-3649-3591) または株式会社日本郵趣エージェンシー (Tel: 03-5951-3433) でもお買い求めいただけます。

INSIDE

国連統一アピール実施	2
国連統一アピール・アフガニスタン	3・4
国連統一アピール・タジキスタン	5
世界エイズ・デー	6
国際ボランティア・デー	7

<http://www.unic.or.jp/>



国連統一アピール

東京アピールは
アフガニスタンとタジキスタンを中心に

～ 2001年11月27日～



コフィー・アナン国連事務総長は11月26日、ニューヨークの国連本部において国際社会に対して18件の人道的危機に関するアピールを行い、戦争や紛争の被害を受けて困窮状態にある3,300万人以上の人々を救うためには、2002年に25億米ドルが必要だと訴えました。本年度の国連による統一アピールのテーマは「弱者へ支援の手を」です。

これを受けて、翌日11月27日には東京を含む世界7つの主要都市で個別アピールが行われました。ロンドンではキャロル・ベラミー国連児童基金（UNICEF）事務局長、ワシントンではキャサリン・パーティーニ世界食糧計画（WFP）事務局長、ブリュッセルではルード・ルベルス国連難民高等弁務官（UNHCR）、コペンハーゲンではメアリー・ロビンソン国連人権高等弁務官（UNHCHR）、ヘルシンキではフランシス・デン国内避難民に関する国連事務総長特別代表、そして東京では大島賢三緊急援助調整官および人道問題担当事務次長が各々行いました。

対象となる18件の人道危機は以下の国・地域を含みます。アフガニスタン、アンゴラ、ブルンジ、朝鮮民主主義人民共和国、コンゴ民主共和国、エリトリア、エチオピア、大湖地域・中央アフリカ、インドネシア、北コーカサス（ロシア連邦）、ソマリア、南東ヨーロッパ、スーダン、タジキスタン、ウガンダおよび西アフリカ（ギニア、リベリア、シエラレオネを含む）。このような国や地域では一般市民が紛争や自然災害の深刻な被害に苦しんでおり、国際社会の援助の手が差し伸べられるのを待っています。

東京・渋谷の UN ハウス5階エリザベス・ローズ会議場で行われた「東京アピール」には、NGO、メディア、各国大使館、国連諸機関からの参加がありました。大島事務次長はこのなかで、アフガニスタンと隣国タジキスタンを中心に、人道支援のために国連加盟各国が資金を

提供するよう呼びかけました。続いてエリック・ラローシュ アフガニスタン担当ユニセフ特別代表、マシュー・カハネ タジキスタン担当人道調整官、シャルロット・レランダー 国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）タジキスタン代表部主席代表より、それぞれの地域における詳細な現状報告が行われました。

国連の統一アピールの目的は、一貫し、かつ、効率的な方法でニーズを訴えることです。これは国連諸機関およびそれらのパートナーが、複雑な緊急状況に対応するために協力をして行く、という意味表示なのです。紛争や自然災害によって深刻な被害を受けている多くの人々に希望を与えるためにも、ドナーはこれらのアピールに対し寛容な貢献を行うことが求められています。

アピールの詳細は <http://www.reliefweb.int> でどうぞ

国連統一アピールとは？

国連統一アピール（The Consolidated Appeals Process = CAP）とは、国連と関係諸機関が人道危機に呼応するために支援の策定、実施、改定を共同で行う計画である。国際社会が人道危機に十分に対応するためには、緊密に調整された対策とともに、タイムリーな援助を実現するために必要な資金を調達することが必要となる。国連統一アピールは、戦略の策定、優先順位付け、そして資金調達を共同で行うための枠組みを提供するものである。

関係諸機関には国際赤十字、国際 NGO や各国の NGO、それに国際開発銀行、支援諸国政府、受益諸国政府などが含まれる。

Afghanistan

アフガニスタン国連統一アピール2001

はじめに

9月11日の事件以降、既に危機的だったアフガニスタンにおける人道問題は驚くべき規模に達し、人道援助諸機関の対応能力は限界に達しました。今後約3カ月の間、750万人のアフガニスタン人が緊急援助を要すると推定されています。

現在、国際社会は新たな複雑な問題を抱えるとともに、チャンスにも恵まれています。ここ四半世紀で初めて平和と繁栄への実質を伴った進展のために、大規模な人道問題の回復と復旧にも同時に全力で取り組まなければなりません。

今後の課題

ここ数週間、国連諸機関は関係非政府機関（NGO）と共同で、援助目標達成に向けて大きな成果を上げることができました。一方、制約や危険がなくなったというにはほど遠く、これまでの成果から、大規模な人道危機が回避されると判断すべきではありません。

最近のアフガニスタン国内での状況の変化は、国内の多くの部分における人道援助活動の条件を根本的に変えることになりました。安全に関する深刻な問題は残るものの、人道援助諸機関は今後数週間間に援助を継続ないし拡充することができるという、慎重ながら前向きな見通しを立てています。国連と関係諸機関は、特に北部、西北部、中部高地の最も状況の悪い地域へのアクセスを改善する努力をする計画です。

できるだけ多くの弱者に援助を届けるため、国連諸機関と NGO 諸機関は30日単位で更新される援助実施計画をもとに活動を進めています。援助実施計画には、以下の内容が盛り込まれています。

- * 地域・部門別の推定緊急援助ニーズ
- * 地域・部門別の国連諸機関・NGO 諸機関の援助活動
- * 援助の届かないと考えられる地域・人口集団の割り出しとその理由
- * 成績と進捗状況の監視ツール

援助諸機関は、今後数週間から数カ月間の重要な期間、30日援助実施計画を主要な計画策定ツールと位置付けています。この期間、危機的な状況にあるアフガニスタン人たちが厳しい冬を越すことができるようになるための援助を届ける最大限の努力が必要となります。したがって、この30日援助実施計画と現行の救援活動は、今年の国連統一アピールのテーマである「弱者に手を」に合致するものです。



アフガニスタン
特別代表

ラフダール・ブラヒミ氏
(Lakhdar Brahimi)

アフガニスタン担当特別代表を務めるラフダール・ブラヒミ氏は、アフガニスタンにおける国連の人道、人権および政治活動に関する全般的な権限を委任されています。同氏はまた、アフガニスタンの再建と復興のための計画策定を通じ、紛争後の平和建設段階への移行に向けた準備に着手する予定です。

ブラヒミ氏は1997年7月から1999年10月にかけて、事務総長のアフガニスタン担当特使を務めました。再びアフガニスタン担当となるまでの間、事務総長の予防的平和創造努力を支援する特別任務担当事務次長を務めていた同氏は、アナン事務総長が国連平和活動の再検討を行うために設置した独立パネルの議長でした。2000年にこのパネルが作成した報告書は「ブラヒミ報告」と呼ばれ、現行の平和維持システムの短所を洗い直し、必要な政治、戦略・作戦および組織面を重視した改革への具体的勧告を提示しました。

ブラヒミ氏は1934年1月1日生まれ。アルジェリアとフランスで教育を受け（法律および政治学）、アラビア語、英語およびフランス語に堪能。



エリック・ラローシュ アフガニスタン担当ユニセフ特別代表



UNHCR は今年1月以来、およそ5万人のアフガン難民を一時的に作られたジャロザイのキャンプから整備されたシャムシャトゥールのキャンプへと移した【UNHCR/L. Boscardi】

東京アピール終了後、レセプションであいさつする黒柳徹子国連児童基金（UNICEF）親善大使【写真提供・日本国連協会東京都本部】

シャムシャトゥールのキャンプでポンプから水を汲むアフガンの子どもたち【UNHCR / C. Shirley】

ドナー・アラート（改訂版）

アフガニスタンおよび周辺諸国における劇的な状況の変化をふまえ、2002年アフガニスタン国連統一アピール準備作業は9月に凍結されました。9月末には、国連事務総長が2001年10月から2002年3月までを対象とした「アフガニスタンおよび周辺諸国におけるアフガニスタン人を支援するための国連統一緊急人道援助ドナー・アラート」を発出しました。この文書には、人道援助活動を計画する上での基礎となる要素とともに、予想されるシナリオ、推測される条件、それに戦略が示されていました。主要部門について、女性や子供を含む危機的な状況にあるアフガニスタン人のニーズに対応するための当面の計画も示されており、ドナーによる支援活動の共通の指針となりました。

事態の展開を予測することが困難であったため、このドナー・アラートは新たな包括的な国連統一アピールの作成へ向けた第一歩として位置付けられました。統一アピールは人道・復旧援助の方向がより明確になるにつれて策定されることとなります。この作業は既に開始されており、2002年2月末には発出されることになる見込みです。

今回改訂されたドナー・アラートは11月9日以降の劇的な状況の変化に対応して用意されたものです。12の部門がカバーされ、10の国連機関と多数の関係 NGO の緊密な共同作業のもとに作成されました。前述の30日援助実施計画と同様に、ドナー・アラート（改訂版）の大きな目的は、流動的な安全状況やアクセスの問題をふまえながら、アフガニスタン人たちが厳しい冬を乗り切るための手立てを提供することにあります。

この結果、食糧、緊急栄養補給、基礎的医療サービス、水や衛生施設、そして住居および非食糧物資の供給が優先課題とされました。また、保護、地雷除去、教育、調整、共通サービスもアフガニスタン人への援助にあたり不可欠な分野です。このドナー・アラートでは、周辺諸国における難民の保護と難民への援助がどのように対処されるかについても示されています。

現地情勢から、基本的な緊急援助が今後長期にわたって必要とされることは間違いありません。しかし、人道、回復、および復旧への援助は密接に関連しています。こうした分野の連携によって平和と開発の最低条件が満たされるからです。よって、可能かつ適切と認められれば、中・長

期的な持続性のある方策がただちに実行に移されるべきです。このため食糧の安定供給、基礎的サービス、再統合、それに移行期における回復と持続性のある生活基盤回復に向けた事業もこのドナー・アラート（改訂版）の対象となっています。

当初のドナー・アラートで示された必要額（5億8,400万米ドル）はその後、食糧援助の見直しより6億6,200万米ドルに上方修正されました。このうち3億4,300万米ドルは既に確保されています。これまでの資金調達状況、難民援助関係ニーズの変化、現時点での現地情勢などを考慮し、このドナー・アラート（改訂版）での必要額は3億1,913万6,883米ドルとなっています。

国連および関係機関はドナーからの過去数カ月間の支援に感謝しています。人道援助諸機関が最も重要な時期に活動をさらに強化するにあたり、今回の改訂されたドナー・アラートに提示されている不足資金を調達することが緊要となっています。また、ドナーは既に表明している資金を拠出することが期待されており、そのことによって、弱い立場に置かれているアフガニスタン人に対する現地の人道援助機関による支援が、効果的かつ迅速に実施されるのです。

Tajikistan

タジキスタン国連統一アピール2001

背景

極度の貧困はタジキスタンの中心的な開発課題です。旧ソ連共和国の中でも最も貧しい同国は1991年の独立以来、不安定な状況にあります。5年に及ぶ内戦、資源の不足による経済の低迷、さらには、2000年から2001年にかけての厳しい干ばつは、すでに対処する術をほとんど失っている大多数の人々の窮状をさらに悪化させました。世界銀行 / UNDP の貧困アセスメント（2000年6月）によれば、国民の83%が国内貧困線以下で暮らし、平均月収は7米ドルに満たず、1人あたりの国民総所得は170米ドル（低所得国の平均は420米ドル）にすぎません。

さらに、アフガニスタン情勢の広域的な影響は、開発問題と人道問題の両方において、タジキスタン国民にさらに複雑かつ切実な脅威を与えています。

タジキスタンに対する援助を促進しようとする国連の努力にもかかわらず、国連の人道プログラム、特に非食糧部門に対する支援は芳しくありません。2001年の国連統一アピールにおいて要請された7,800万米ドルのうち、現時点で確保できたのはわずか46%に止まっています。このため、直面するニーズへの国連の対応能力は制約されており、長期的な影響も懸念されています。



マシュー・カハネ タジキスタン担当人道調整官

2002年、国連はその他の人道援助団体との調整を図りながら、社会の最も弱い人々、特に女性と子どもへの緊急援助を最優先するための努力を継続する予定です。国連はまた、緊急援助をより長期的な社会・経済復興へとつなげ、ひいては極度の貧困を緩和し、持続可能な平和に貢献することに務める所存です。

目標と優先課題

タジキスタンにおける国連各機関と関係協力機関は、2002年につき、以下の目標を掲げた戦略を策定しました。

- 目標1：食糧、清潔な飲料水と衛生設備、世帯およびコミュニティ単位での保健・教育サービスなど、継続的な緊急援助努力が社会的弱者、特に辺境地帯と山岳地帯に暮らす人々に届くようにすること。
- 目標2：Food for Work プログラム、種子開発、および、次期に収穫するための食糧の生産に不可欠な他の投入財の提供を通じ、農業イニシアチブを支援すること。
- 目標3：プライマリー・ヘルスケア、ならびに、飲用水、衛生設備および教育などの基礎的社会サービスに対するアクセスを改善すること。
- 目標4：武装解除された戦闘員、解放された抑留者、一般の帰還民、および、その他の社会的弱者の実効的な再統合を容易にするための経済的・社会的機会を創出すること。



シャルロット・レランダー
IFRC タジキスタン代表



世界ではいま、毎日8,000人以上がエイズで亡くなり、1時間にほぼ600人がエイズの原因となる HIV (ヒト免疫不全ウイルス)

に感染し、1分間に1人の子供がこのウイルスのために死んでいる。9月11日(米中樞同時テロ)以降も人々の生と死は続いている。私たちは HIV/ エイズの流行に対する闘いを継続していかなければならない。2カ月前のテロリストの攻撃以前に、私たちは HIV/ エイズとの闘いを大きく前進させた。その勢いを失うことは、1つの悲劇によってもう1つの悲劇を隠してしまうことになる。

HIV/ エイズの流行は地球規模の大災害である。12月1日の世界エイズ・デーに先立って発表された報告書によると、世界で4,000万人以上が HIV に感染している。その多くが暮らすサハラ砂漠以南のアフリカでは、エイズの流行が開発の主要な阻害要因になり、貧困を悪化させ、復興に必要な能力まで制限しつつある。カリブ地域やアジアの一部の国の状況も大きくは変わらない。ロシア東欧の流行は警戒すべき勢いで拡大している。

長い間、エイズの流行に対する世界の動きは鈍かったが、この1年で危機の重大性が認識され、世界が一致してこの重大な破局に対する解決策を見いだそうとする機運が生まれてきた。

メディアやNGO、アクティビスト、医師、エコノミスト、そしてこの病を抱えて生きる人たちが世論を喚起し、製薬会社は貧しい国々でエイズ治療薬がこれまでより入手しやすくなるよう努力している。多数の企業が従業員と消費者を含むより広いコミュニティに予防と治療の両方を提供するプログラムを作ってきた。いくつもの財団が予防や母子感染防止、ワクチン開発のために資金的にも知識の面でも貢献している。各地域の文化的な特徴を考慮に入れた効

WORLD AIDS DAY

世界エイズ・デー (12月1日)

コフィー・アナン国連事務総長メッセージ

果敢な予防キャンペーンを開始する国はどんどん増えている。予防と治療の間に切り離すことができない関係があることは、ドナーにもエイズの流行が深刻な国にも認識され、女



UN ギャラリーは世界エイズデーにあわせ、「2001 世界エイズデーキャンペーン・アンディ・レイン写真展」を開催した【Photos by Andy Rain】

性がエイズとの闘いで重要な役割を担っていることも理解されるようになった。

国連ファミリー全体が国連エイズ合同計画 (UNAIDS) を通じ、共通の戦略計画のもとに国や地域、世界全体の努力を支え、闘いの最前線に立っている。何よりも重要なのは、それぞれの国で、とりわけアフリカ諸国で、指導者がエイズについてはっきりと語るようになったことだ。

2001年6月、国連はエイズ特別総会を開き、世界の経済、社会、開発の全ての分野で HIV/ エイズ に最も高い優先順位を置いて対策を取るよう求めるコミットメント宣言を採択した。そ

の中で各国は、2000年秋の国連ミレニアム宣言の「2015年までにエイズの流行の拡大をとめ、縮小に転じる」という約束を再確認し、その実現のために達成期限を明示した目標を設定した。たとえば、2005年には中・低所得国で必要とされる年間70億~100億ドルのエイズ対策資金を確保し、すべての国が広範な予防プログラムを実施できるようにすると約束した。さらにエイズ対策の拡大強化を緊急に支援する基金の設立を支持した。

私がエイズおよび他の感染症との闘いを支援する新たな世界基金設立を提案してから、わずか7カ月で資金拠出の約束は15億ドルに達した。基金はエイズ対策の費用を供給する唯一のチャンネルではないが、幅広い拠出の申し出が寄せられている。日本を含む世界で最も裕福な国々だけでなく、最も貧しいとされるいくつかの国、多数の財団や民間企業、個人も寄付を約束している。

この画期的な年の終わりにあたって、私たちはエイズとの闘いの進路図と手段と知識を手に行っている。いま必要なのは政治的な意志を持続させることである。9月11日以降、私たちは以前より深く、どんな世界を子供たちのために望んでいるのかについて考えるようになった。実はそれは、9月10日に私たちが望んでいた世界、つまり子供たちが1分ごとにエイズで死んでいくことのない世界と同じである。だからこそ私たちは、1つの悲劇によって、もう1つの悲劇が覆い隠されてしまうことがないように努力する必要がある。

(本文は12月1日の産経新聞に掲載された事務総長の寄稿文を転載したものです)

INTERNATIONAL VOLUNTEER DAY

国際ボランティア・デー（12月5日）

コフィー・アナン国連事務総長メッセージ

まもなく幕を閉じようとしているボランティア国際年は、私たちみんながボランティア活動についてあらゆる面からじっくりと考える良い機会となりました。また、世界中に揺るぎない健全な社会を築く上でボランティアがなす大きな貢献について、私たちの認識を高めるまたとない契機にもなりました。

1,000万人のボランティアの助けがなければ、ユニセフ（UNICEF）とそのパートナー組織が5億5,000万もの子どもたちにポリオの予防接種をすることはできなかったでしょう。2001年現在、ボランティアの支援の価値は100億ドルと推定されています。それは、国連やそのパートナー組織が自分たちだけで対応できる範囲を大きく超えています。

また、農業や漁業に携わる人々、航空機のパイロット、船長など、何百万もの人々の助けがなければ、世界気

象機関（WMO）は世界の気象状況に関する重要なデータを集めることができなかつたでしょう。2年前、93才になるそうしたボランティアの1人に気象観測者の団体から荣誉賞が授けられました。56年間毎日、水文



国連広報センターでは毎日たくさんのボランティアの皆さんにお手伝いいただいています（写真協力・日本国連協会東京都本部）

学上の観測を続けたことに感謝が捧げられたのでした。

このような献身的な活動はいろいろな形で行われています。しばしば、

ボランティア活動は裕福な人々だけが行っているといわれますが、決してそんなことはありません。世界各地で活動する年4,500人の国連ボランティアのうち、3分の2以上は開発途上国の人々です。実際、社会のあらゆる階層や職業の人々、あらゆる文化や宗教をもつ人々が、同胞である他者の手助けをするために自分の時間を割いているのです。

私たちは、この価値ある活動を支えるために、できる限りのことをしなければなりません。ボランティア国際年はまもなく終わりますが、ボランティアの働きの重要性は変わらないのです。すべての人にとってよりよく、より安全な世界を作るという私たちの目標に達するには、これまでも増してボランティアの力が必要です。国際ボランティア・デーを迎えた今日、さらに多くの人々が他人のために貢献しようとする気持ちを持ち、世界的なボランティア活動の潮流にどんどん加わってくれることを希望しましょう。どこに暮らし、どこで働いていても、私たちは誰もが他者に分け与えられる何かをもっているのです。

街角からのメッセージ

2002年4月8日から12日まで、スペインのマドリードで第2回高齢者問題世界会議が開催される予定です。

この会議を多くの皆さんに知っていただくため、同会議の親善大使を務めるパントマイムの第一人者、マルセル・マルソー氏が出演する国連公共広告ビデオ（60秒間）が作られ、日本では都内4カ所で放映されています（右記参照）。

お近くを通りがかりの際には、是非足を止めてメッセージにご注目ください。



表参道：原宿アストロ
（神宮前交差点）

渋谷：109フォーラム
ビジョン（ハチ公前）

有楽町：マリオンビジョン

池袋：シネマサンシャイン・アイムビジョン

お知らせ

佐藤栄作元首相のノーベル平和賞賞金をもとに設立された財団法人、佐藤栄作記念国連大学協賛財団では第18回「佐藤栄作賞」の論文を募集しています。テーマは「教育問題について国連、国連大学が担う役割」。締め切りは2002年1月31日（当日消印有効）です。ご応募・お問い合わせは佐藤栄作記念国連大学協賛財団（Tel: 03-3409-0707）まで。

UN ギャラリー

次回展示のお知らせ

国連は来たる2002年を「国際山岳年」と定めています。「国際山岳年」は、山岳地域の環境保全および持続可能な開発を促進することで、山岳・低地社会の福利を発展させることを目的としています。

東京・渋谷のUNギャラリーでは、新たな国際年を広く皆さんに知っていただくため、2002年1月25日(金)より「国際山岳年写真展『世界の山嶺に息づく』」を開催します。

国連大学の山岳プロジェクトに長年かかわってきたジャック・D・アイブス氏、60年以上にわたり山岳自然を映像にとどめている日本山岳写真協会(JAPA)、および国連が2002年5月に発行する「国際山岳年」記念切手に採用されることが決定している山岳写真家・白川義員氏らの作品が展示される予定です。

2002年のギャラリーめぐりはUNギャラリーから始めてみてはいかがでしょうか。多くの皆さまのお越しを心よりお待ちしております。



朝焼けのバイネ - アンデス・パタゴニア - (撮影・JAPA会長、風見武秀)

期 間：2002年1月25日(金)～3月29日(金)
土日、祝祭日休館
時 間：午前10時～午後5時30分
場 所：UNギャラリー
〔UNハウス(国連大学ビル)1、2階〕



The Nobel Peace Prize



アナン国連事務総長(右)

創設100周年を迎えたノーベル賞の授賞式が12月10日に行われ、ノルウェーのオスロ市庁舎で、国連とアナン事務総長に平和賞が授与されました。アナン事務総長は受賞演説の中で、「21世紀における国連の使命は、人種や宗教に関係なく、個々の人間の尊厳を改めてより深く認識することです」と述べました。事務総長の講演は国連広報センターのホームページで読むことができます。



ハン・スンス第56回総会議長(右)



発行：国際連合広報センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 UNハウス8階

TEL: 03-5467-4451

FAX: 03-5467-4455

URL: <http://www.unic.or.jp> / E-mail: unictok@blue.ocn.ne.jp